

専門分野		研究指導分野		指導・副指導教員氏名		研究 内 容	
基礎	生 体 機 能	獣医解剖学	教 授 渡邊 敬文	1) 3次元電子顕微鏡を用いた超微細構造の解析 2) 酸化ストレスによるミトコンドリアの形態変化 3) 運動器系の結合組織に関する研究			
			講 師 高橋 直紀	1) 電子顕微鏡を用いた超微細形態の立体構造解析 2) 腱のコラーゲンに関する研究			
			助 教 小林 良祐	1) 哺乳動物の胚着床制御に関する研究 2) 子宮がんをはじめとした雌性生殖器官疾患におけるエピジェネティック制御 3) ゲノム・エピゲノム編集技術を駆使した形態形成の理解			
		獣医生理学	教 授 翁長 武紀	1) 消化管運動の調節機序に関する研究 2) 消化管ペプチドの刺激分泌連関に関する比較内分分泌学的研究			
			教 授 林 英明	1) 各種動物におけるストレス動態に関する研究 2) 動物福祉の生理学的評価と応用に関する研究 3) 反芻動物における栄養素吸収・代謝機構に関する研究			
			講 師 守屋 大樹	1) 光変換蛍光タンパク質を利用した免疫細胞の動態解析 2) 鳥類免疫機構の解析と獣医療への応用			
	獣医薬理学	教 授 岩野 英知	1) 環境ホルモンの次世代影響機序の解明 2) イヌ乳腺腫瘍の早期診断および予後診断の開発 3) 病原細菌に対するファージセラピーの応用研究				
		講 師 藤本 純平	1) ファージ感染機構と病原細菌のファージ耐性化機構の解明 2) 進化学的トレンドに基づきファージセラピーの構築 3) 環境および動物が保持するファージ叢の解析とその予防的応用				
		准教授 中村 達朗	1) 小型熱帯魚を用いた新規 in vivo 創薬モデルの開発 2) 小型熱帯魚を用いた環境毒理学に関する研究 3) タンチョウの保全科学（環境汚染、遺伝背景）				
	獣 学	疾患モデル学	准教授 嶋田 圭祐	1) 遺伝子改変マウスを用いた精子形成メカニズムの解析			
			准教授 中村 達朗	1) アレルギー反応の役割解明に関する研究 2) 獣医アレルギー腫瘍学に関する研究			
		医 学	獣医病理学	教 授 寺岡 宏樹	1) 小型熱帯魚を用いた新規 in vivo 創薬モデルの開発 2) 小型熱帯魚を用いた環境毒理学に関する研究 3) タンチョウの保全科学（環境汚染、遺伝背景）		
准教授 中村 達朗				1) アレルギー反応の役割解明に関する研究 2) 獣医アレルギー腫瘍学に関する研究			
准教授 嶋田 圭祐				1) 遺伝子改変マウスを用いた精子形成メカニズムの解析			
感 染 学			獣医病理学	教 授 松田 一哉	動物の自然発生疾患に関する病理学的研究、病理解剖学的ならびに組織学的診断		
	教 授 福本 晋也			1) 病原体を媒介しない蚊による犬糸状虫症の制御 2) 犬糸状虫の生態疫学解析 3) 野生動物における寄生虫感染症の疫学調査			
	講 師 石崎 隆弘			1) パベシア原虫の赤内期必須遺伝子の解明 2) 抗マラリア原虫作用を示す宿主応答反応の探索 3) 細胞内超微細構造を解明するための反復拡大顕微鏡法の確立			
病 理 学	獣医ウイルス学	教 授 萩原 克郎	1) 家畜・野生動物における感染症の疫学と予防・治療研究 2) ウシの免疫機能に関する研究 3) 腫瘍免疫に関する研究				
		准教授 大道寺 智	1) ウイルスゲノムと病原性の研究 2) ウイルス・宿主の相互作用から見える病原性の研究				
	獣医細菌学	教 授 秋庭 正人	1) 細菌感染症の分子疫学と防除技術に関する研究 2) 動物由来細菌の環境抵抗性と病原性に関する研究				
		准教授 平田 晴之	1) 分子生物学的な診断法の確立 2) 各種動物に寄生している寄生虫及び原虫の同定と進化系統解析				
獣医臨床病理学	准教授 岡本 実	伴侶動物、展示動物、エキゾチック等の動物の自然発生疾病の診断を通じた治療および防除に関する研究					

注) 下線のある教員は副指導教員

専門分野		研究指導分野	指導・副指導教員氏名	研 究 内 容
臨 牀 動 物 学	生 産 動 物 学	生産動物内科学	教 授 田島 誉士	1) 牛ウイルス性下痢ウイルス感染症の疫学的研究 2) 生産獣医療におけるウイルス感染症対策に関する研究 3) 感染性因子が家畜の生産性に及ぼす影響
			准教授 三浦亮太郎	1) 牛の分娩前後の栄養・炎症状態とその後の生産性との関連 2) センシング技術の牛への応用に関する研究 3) 長期不受胎牛の発生に関わる要因の探索とその対策
		生産動物外科学	教 授 鈴木 一由	1) 大動物における静脈内輸液・栄養輸液管理に関する臨床研究 2) 牛の炎症性疾患に関する病態生理学的研究 3) エンドトキシンショックに関する病態生理および臨床薬理学的研究
			講 師 佐藤 綾乃	1) 牛の外科疾患における臨床研究 2) 乳牛の歩行様式の変化に影響を与える環境及び個体要因の解析
	伴 侶 動 物 学	伴侶動物内科学	教 授 大田 寛	1) 犬の慢性腸炎と消化器型リンパ腫の病態解析 2) 猫の低悪性度消化器型リンパ腫の病態解析 3) 伴侶動物の消化器疾患の診断における画像診断の有用性
			講 師 田村 昌大	1) 肝疾患罹患犬の腸内細菌叢に関する研究 2) 犬猫の新規超音波診断技術の臨床応用に関する研究
		伴侶動物外科学	教 授 鳥巢 至道	1) 小動物領域における低侵襲外科治療の研究 2) 小動物領域における外科代謝栄養学に関する研究
			教 授 井坂 光宏	1) 循環器を中心とした多臓器円環に関する研究 2) 新規の心臓血管外科の開発に関する研究 3) 老齢医学（ザルコベニア）に関する研究
		獣医臨床腫瘍学	准教授 山崎 裕毅	1) 3次元スフェロイド培養モデルの樹立とその応用 2) 犬の固形がんに対する低酸素標的治療の開発 3) 悪性腫瘍の診断と治療に関するバイオマーカーの検索
		画像診断学	准教授 華園 究	1) スパースモデリングを用いたMRI撮像の高速化と臨床応用 2) ドブラ法および造影超音波検査を用いた犬猫の腎機能解析 3) 超音波検査、MRI検査を用いた右房機能解析
		獣医麻酔学	教 授 山下 和人	1) 犬猫における麻酔疼痛管理・周術期栄養管理に関する研究 2) 犬猫の集中治療に関する研究 3) 馬の敗血症治療に関する研究
			准教授 伊丹 貴晴	1) 犬・猫における硬膜外麻酔および神経ブロックによる知覚神経遮断領域の検討 2) 犬におけるアシドーシス病態時の循環動態管理に対する治療戦略の模索 3) 内毒素血症モデル豚における新規薬剤フザプラジブの呼吸循環機能改善効果 4) 内毒素血症モデル豚における超飽和水素含有輸液製剤の呼吸循環機能改善効果
		獣医神経病学	講 師 濱本 裕仁	1) 犬猫のてんかんにおける病態解析 2) 脳脊髄液を用いた犬猫の神経疾患におけるバイオマーカーの確立
		馬臨床学	准教授 都築 直	1) 大動物の酸化ストレスに関する研究 2) 大動物の画像診断に関する研究
		獣医臨床検査学	准教授 宮庄 拓	1) 敗血症モデルブタを用いた敗血症における生体反応と治療デバイスによる治療効果に関する研究 2) 正しい検査データを得るための手技に関する研究
応 用 動 物 学	衛 生 学	獣医衛生学	教 授 樋口 豪紀	1) ウシ乳腺免疫機構に関する基礎的研究 2) Mycoplasmaに対するウシの病態形成メカニズムに関する研究
			准教授 権平 智	1) Mycoplasma bovisの病原性因子の探索 2) Mycoplasma bovisがウシの免疫応答能に及ぼす影響 3) アミノ酸がウシ乳房炎の免疫応答能に及ぼす影響
	生 産 学	獣医疫学	教 授 蒔田 浩平	日本および発展途上国における家畜および人獣共通感染症の疫学研究、輸出入および食品衛生リスク分析、感染症モデリング、学際的分野のワンヘルスアプローチ
		食品衛生学	教 授 臼井 優	1) 動物、環境および食品由来薬剤耐性菌の疫学研究 2) 薬剤耐性菌対策（診断法開発を含む）に関する研究
			講 師 福田 昭	1) 薬剤耐性菌に関する疫学研究 2) 薬剤耐性菌/耐性遺伝子の動態に関する研究 3) 食品における微生物汚染と制御に関する研究
	環 境 学	環境衛生学	教 授 能田 淳	1) 動物飼育環境における衛生管理と疾病予防に関する研究 2) 大気を介した感染源とその予防に関する研究 3) 構築環境下での衛生管理に関する研究
		人と動物の関係学	教 授 郡山 尚紀	1) 馬の悪癖に関する研究 2) 海棲哺乳類の生態と人間活動の関係に関する研究 3) 動物介在介入における動物の生体反応に関する研究
	境 界 学	人獣共通感染症学	准教授 内田 玲麻	1) 蚊媒介性フラビウイルスの疫学および媒介能に関する研究 2) 野生動物におけるマダニ媒介性ウイルスに関する研究
		ハーブヘルス学	教 授 及川 伸	1) 牛の代謝性疾患の制御に関する研究 2) 牛の生産病と飼養環境に関する研究 3) 酪農における生産関連データの有効活用システムの研究
			准教授 福森 理加	1) 乳牛の栄養生理学にもとづく飼養管理の実践 2) 代謝ホルモンの分泌・作用の解明 3) 周産期管理
		獣医倫理学	教 授 高橋 優子	1) 獣医療倫理理論 2) パーナード・ローリンの思想 3) 比較獣医倫理思想

注) 下線のある教員は副指導教員

獣医保健看護学専攻 修士課程

専門分野	研究指導分野	指導教員氏名	研 究 内 容
基礎・応用獣医保健看護学	獣医解剖学	教 授 渡邊 敬文	1) 3次元電子顕微鏡を用いた超微細構造の解析 2) 酸化ストレスによるミトコンドリアの形態変化 3) 運動器系の結合組織に関する研究
		講 師 高橋 直紀	1) 電子顕微鏡を用いた超微細形態の立体構造解析 2) 腱のコラーゲンに関する研究
		助 教 小林 良祐	1) 哺乳動物の胚着床制御に関する研究 2) 子宮がんをはじめとした雌性生殖器官疾患におけるエピジェネティック制御 3) ゲノム・エピゲノム編集技術を駆使した形態形成の理解
	獣医生理学	教 授 林 英明	1) 各種動物におけるストレス動態に関する研究 2) 動物福祉の生理学的評価と応用に関する研究 3) 反芻動物における栄養素吸収・代謝機構に関する研究
	獣医生化学	教 授 岩野 英知	1) 環境ホルモンの次世代影響機序の解明 2) イヌ乳腺腫瘍の早期診断および予後診断の開発 3) 病原細菌に対するファージセラピーの応用研究
		准教授 宮庄 拓	1) 針葉樹の香気成分が動物に与える効果に関する研究 2) 敗血症モデルブタを用いた敗血症における生体反応と治療デバイスによる治療効果に関する研究
		講 師 藤木 純平	1) ファージ感染機構と病原細菌のファージ耐性化機構の解明 2) 進化学的トレードオフに基づくファージセラピーの構築 3) 環境および動物が保持するファージ叢の解析とその予防的応用
	動物薬理学	教 授 寺岡 宏樹	1) 小型の熱帯魚を用いた環境汚染物質の作用機構解明 2) タンチョウの保全科学（環境汚染、遺伝背景） 3) 伴侶動物の臨床薬理
		准教授 中村 達朗	1) アレルギー反応の役割解明に関する研究 2) 獣医アレルギー腫瘍学に関する研究
	獣医病理学	教 授 松田 一哉	動物の自然発生病患に関する病理学的研究、病理解剖学的ならびに組織学的診断
臨床獣医保健看護学	医動物学	教 授 福本 晋也	1) 病原体を媒介しない蚊による犬糸状虫症の制御 2) 犬糸状虫の生態疫学解析 3) 野生動物における寄生虫感染症の疫学調査
		講 師 石崎 隆弘	1) バベシア原虫の赤内期必須遺伝子の解明 2) 抗マラリア原虫作用を示す宿主応答反応の探索 3) 細胞内超微細構造を解明するための反復拉大顕微鏡法の確立
	獣医微生物学	教 授 秋庭 正人	1) 細菌感染症の分子疫学と防除技術に関する研究 2) 動物由来細菌の環境抵抗性と病原性に関する研究
	公衆衛生学	教 授 蒔田 浩平	日本および発展途上国における家畜および人獣共通感染症の疫学研究、輸入および食品衛生リスク分析、感染症モデリング、学際的分野のワンヘルスアプローチ
		教 授 臼井 優	1) 動物、環境および食品由来薬剤耐性菌の疫学研究 2) 薬剤耐性菌対策（診断法開発を含む）に関する研究
	環境衛生学	教 授 能田 淳	1) 動物飼育環境における衛生管理と疾病予防に関する研究 2) 大気を介した感染源とその予防に関する研究 3) 構築環境下での衛生管理に関する研究
	獣医衛生学	教 授 樋口 豪紀	1) ウシ乳腺免疫機構に関する基礎的研究 2) Mycoplasmaに対するウシの病態形成メカニズムに関する研究
		教 授 田島 誉士	牛群管理における感染症対策の重要性と疾病コントロール
	生産獣医療学	准教授 三浦亮太郎	1) 牛の分娩前後の栄養・炎症状態とその後の生産性との関連 2) センシング技術の牛への応用に関する研究 3) 長期不受胎牛の発生に関わる要因の探索とその対策
		教 授 鈴木 一由	1) 各種動物における炎症性疾患に関する病態生理学的研究 2) エンドトキシンショックに関する病態生理および臨床薬理学的研究 3) 各種動物における静脈内輸液・栄養輸液管理に関する臨床研究
臨床獣医保健看護学	動物疾病治療学	准教授 岡本 実	伴侶動物、展示動物、エキゾチック等の動物の自然発生病の診断を通じた治療および防除に関する研究
		教 授 山下 和人	1) 犬猫における麻酔疼痛管理・周術期栄養管理に関する研究 2) 犬猫の集中治療に関する研究 3) 馬の敗血症治療に関する研究
	獣医麻酔学	准教授 伊丹 貴晴	1) 全身麻酔下の犬における体温喪失および保温に関する研究 2) 重症動物における炎症性サイトカインと周術期管理に関する研究 3) 重症動物における炎症性サイトカインと術後疼痛に関する研究
		准教授 華園 究	1) スパースモデリングを用いたMRI撮像の高速化と臨床応用 2) ドブラ法および造影超音波検査を用いた犬猫の腎機能解析 3) 超音波検査、MRI検査を用いた右房機能解析
	動物理学療法	※ 未定	
	動物行動学	教 授 郡山 尚紀	1) 伴侶動物の行動と問題行動治療に関する研究 2) 野生動物の行動および生態と人と動物の共生に関する研究
		教 授 鳥巢 至道	1) 小動物領域における低侵襲外科治療の研究 2) 小動物領域における外科代謝栄養学の研究針葉樹の香気成分が動物に与える効果に関する研究
	伴侶動物外科学		

教員組織および研究指導分野

酪農学専攻 修士課程

大講座	研究指導分野	指導教員	研 究 内 容
作物生産科学	土壌植物栄養学	教 授 小八重善裕	圃場における物質循環を作物栄養学の視点で捉え、栽培に生かす研究を行う。特に菌根などの共生システムを分子生物学的手法を用いて理解する。
		教 授 澤本 卓治	土壌を中心とした物質循環を研究対象としており、具体的には土壌やふん尿処理過程から発生する温室効果ガスの動態や土壌中の養分の挙動について研究を行う。
	病理・害虫学	教 授 園田 高広	アスパラガス病害の発生生態の解明及び病害抵抗性育種に関する研究に取り組む。
		教 授 薦田 優香	農作物や牧草などに感染するウイルスを主な研究対象とし、生化学的及び分子生物学的手法を用いて、植物とウイルスとの相互作用やウイルス感染・増殖機構の解明を目指す。
		准教授 中平 賢吾	持続可能な農業害虫の防除体系の確立を目指して、害虫と天敵の生活史や行動等の基礎生態の解明や、農業現場における害虫の発生メカニズムの解明、天敵昆虫の利用法の開発等に関する研究を行う。
	飼料作物学	教 授 三枝 俊哉	寒地における資源循環型の持続的な草地管理および粗飼料生産技術の確立を目指す。 1. 主要草種の生育特性解明 2. 草地の草種構成制御 3. 草地飼料畑の養分動態解明
		教 授 義平 大樹	飼料作物（トウモロコシ、牧草、麦類）と食用作物（麦類、豆類）における多収と高品質を両立できる栽培技術の確立と、その乾物生産過程からみた要因解明について研究する。
		准教授 林 怜史	作物（イネ、トウモロコシ、パレイショ）における多収、省力化、環境負荷低減栽培技術について研究する。
	植物遺伝学	教 授 森 志郎	植物バイオテクノロジーを利用して園芸植物における生殖隔離の克服に取り組む。また、寒冷地特産園芸植物の生理生態的特性を明らかにし、高品質栽培技術の確立を目指す。
		教 授 我妻 尚広	圃場での雑草や生態系での野生植物の営みを分子生物学的な手法で明らかにし、それらの雑草や野生植物集団の遺伝構造を推測し、伝来や拡散過程を研究する。
		准教授 岡本 吉弘	自殖性作物、特にイネの半数体育種法における諸問題に取り組む。 1. 蒔培養効率の技術改善 2. 蒔培養法以外の半数体育種法の確立 3. 蒔培養効率の遺伝子マッピング 4. DHLsやRILsなどのイネ実験系統群の作出
	酪農機械学	准教授 石川 志保	家畜排せつ物等バイオマスのエネルギー利用に関する研究や、家畜の快適性と作業効率向上のためのスマート統合システムを開発し、家畜・ヒト・環境に優しい新たな畜産経営システムの構築を目指す。
家畜生産科学	家畜繁殖学	教 授 今井 敬	1. ウシ体外受精胚における発生率向上及び受胎性評価技術に関する研究 2. ウシ雌雄産み分け技術の高率化に関する研究 3. 家畜胚の新しい生産技術の開発に関する研究
		教 授 堂地 修	1. ウシ胚の効率的な生産方法の開発 2. ウシ卵子及び胚の超低温保存技術の開発 3. 胚移植の受胎率向上と有効利用 4. 高泌乳牛の繁殖生理の特性 5. 牛の繁殖管理技術の向上
		准教授 西寒水 将	1. 乳牛および肉牛におけるゲノミック評価と繁殖技術（人工授精、受精卵移植、体外受精）を併用した効率的な牛群整備および経済的高能牛の生産に関する研究 2. 人工授精および受精卵移植の受胎率向上に関する研究 3. 食品加工副産物等の未利用資源利用によるエコフィードを活用した肉牛の飼養コスト低減技術の研究

注）下線のある教員は、研究指導補助と講義のみ

酪農学専攻 修士課程

大講座	研究指導分野	指導教員	研 究 内 容
家畜生産科学	遺伝・育種学	教 授 天野 朋子	1. 家畜における乳と肉の生産に関わる遺伝子の研究 2. 家禽における卵と肉の生産に関わる遺伝子の研究 3. 家畜と家禽の適切な管理に関わる抗病性や繁殖能力、気質などの形質を制御する遺伝子の研究
		准教授 増田 豊	家畜の経済諸形質を遺伝的に改善するための手法について研究する。 1. 遺伝的能力予測のための統計モデルの構築 2. ゲノム情報等を用いた育種技法 3. データ解析のためのソフトウェアの開発
	家畜栄養学	教 授 菊 佳男	1. 牛の乳房炎の診断、治療および予防に関する研究 2. 牛の乳房炎に対する抗菌薬治療の代替法に関する研究
		教 授 中辻 浩喜	土地利用型乳肉生産システムを土-草-家畜を巡る物質循環として捉え、飼料のエネルギー利用効率および単位土地面積当たりの家畜生産量の観点から総合的に評価する。
		教 授 山田 未知	豚や鶏におけるエコフィードの活用法や給与飼料が十分活用されるような飼養環境の改善について研究を行う。また、養豚においては効率的な子豚生産のために、その繁殖性改善のための研究も併せて行う。
		講 師 土井 和也	自給飼料を主体とした反芻家畜の飼養管理を目指して、粗飼料や粕類のサイレージ調製に関する研究や、放牧地にて加速度センサーを用いて摂取量を把握する研究を行う。
	家畜管理学	教 授 森田 茂	家畜の動作・活動（採食行動、休息行動、人に対する反応）を解析するとともに、家畜の社会行動から家畜同士の関係を把握することで家畜の習性に配慮し、洗練化された飼養管理技術の構築を目指す。
		教 授 山田 弘司	人と動物の関係学の研究として、アニマルセラピーや乗馬療法の効果、人とペットの関係調査、動物のストレス反応や性格・気質測定、動物園動物の展示と行動調査を行う。
		准教授 猫本 健司	ふん尿の循環利用・窒素収支に関する研究、搾乳関連排水の低コスト処理、温室効果ガスの発生実態などを検討する。今後は「実践」にふさわしい新たなテーマも取り組む。
	酪農生物化学	※未定	
酪農情報学	酪農経営情報学	教 授 吉野 宣彦	酪農専業地帯の農協の業務データ等をデータベースに構築し、逐次経営分析を可能にするプログラムを開発して研究に利用する。 1. 酪農経営における収益性格差の要因 2. 草地更新における経済効果の形成条件 3. 放牧酪農における高収益の確保条件
	農業経営学	教 授 日向 貴久	1. 畜産経営における、経営管理・経営計画に関する研究 2. 持続的な農業に向けた生産者の意思決定に関する研究 3. 持続的な農業を推進するための社会条件に関する研究
		教 授 吉岡 徹	1. 農業経営における、経営戦略の立案と実践方法について 2. 地域営農システムの展開条件と方向性に関する研究 3. 農業支援システムの成立要件と発展方向に関する研究
	酪農政策学	教 授 井上 誠司	地域農業のシステム化並びに地域農業振興計画の有効性に関する研究を行う。
		教 授 小糸健太郎	1. 酪農の生産性に関する研究 2. 農家の技術選択に関する研究 3. 食品廃棄物・副産物利用の現状とその利用に関する研究
		教 授 小林 昭博	農村と都市に通底する社会的・文化的問題を聖書とキリスト教思想に基づき応用倫理学の観点から読み解く。 1. ジェンダー研究、セクシュアリティ研究、クィア研究 2. 平和研究、人権研究、生命倫理学 3. 動物の福祉、動物の権利、自然との共生
	農業市場学	教 授 糸山 健介	農畜産物の流通システムと結節点としての農業協同組合の機能に関する研究

注) 下線のある教員は、研究指導補助と講義のみ

酪農学専攻 修士課程

大講座	研究指導分野	指導教員	研 究 内 容
環 境 共 生 学	野生動物学	教 授 佐藤 喜和	北海道を代表する野生動物であるヒグマを中心に、その生態を理解し、人間との軋轢を最小化するため、野外調査から室内実験、データ解析まで様々な手法を用いた研究を行う。
		准教授 伊吾田宏正	野生動物管理の重要な要素である狩猟について、その生態学的・社会的役割を追求するため、狩猟に関する動向や意識、狩猟鳥獣の生態および効率的捕獲手法等を研究する。
		准教授 鈴木 透	野生動物・生物多様性と人間社会との共生を図るために、保全生物学・景観生態学的なアプローチを用いた基礎的・応用的な研究を行っている。
		准教授 立木 靖之	地域の生物多様性と社会の境界線上に生じる軋轢の解決を目的に、国内外のフィールド調査で収集された「事実」に基づき、両者にとっての利益を見出し、共存する方法を探索する。
		准教授 原村 隆司	野生動物の行動や生態に関する研究を行っており、研究対象とする生物は、主として両生類または昆虫類の各種で基礎的研究に重点をおいて調査する。
		講 師 伊藤 哲治	野生動物の生態・生息状況を考慮した野生動物管理を、広域的・局所的に行っていくための知見を得ることを目的として、フィールド調査により得られた情報・試料を用いて、様々なアプローチにて調査・研究を行う。
		講 師 松林 圭	昆虫を中心とした無脊椎動物の多様性創出および維持機構を、生態遺伝学的手法を用いて解明する。指導分野は、進化生態学、行動生態学、分類学、分子集団遺伝学、量的遺伝学、形態学が主だが、希望すればゲノミクスや数理解析、化学分析まで可能。
		准教授 森 さやか	野生動物の生態や行動、進化についての基礎的な研究を基盤としつつ、保全に関わる応用的研究にも取り組む。野外調査を重視するが、GIS解析、DNA解析などの手法も用いて研究を行っている。主要な研究対象は野生鳥類。
		講 師 松本 圭司	主に昆虫をはじめとする無脊椎動物が季節の変化にどのように適応しているのか、そのメカニズムを生理学的、分子生物学的、分析化学的、さらには神経内分泌学的アプローチから総合的に研究を行っている。
	国際環境情報学	教 授 星野 仏方	主にアジアの生態・環境となりわいの長期変動のモニタリングや解析、研究を行なっている。
		准教授 小川 健太	衛星、航空機、無人機からの計測（＝リモートセンシング）、GIS、GPS等を用いた森林や農地のモニタリング、気候変動の予測、環境政策の立案等への情報活用に関する研究を行う。
		講 師 吉村 暢彦	GIS、GPS、リモートセンシング技術を用いた森林管理や防災、観光等の分野における人の活動の評価手法についての研究を行う。
	地球環境保全学	教 授 中谷 暢丈	環境中における生元素や有害物質の生物地球化学的循環過程の解明とその人的相互作用の評価、生物学的・化学的手法を用いた環境評価手法の開発に関する研究を展開する。
		教 授 保原 達	陸上生態系内の現象に潜む目に見えない仕組みや原因などについて、生物と環境双方の共通項である『物質』を頼りに分析・解明している。
		教 授 吉田 磨	1. 地球温暖化に関する国内外フィールド観測と国際精度分析 2. 生物地球化学的物質循環と地球環境変化の解析 3. フィールド観測を用いた持続可能な農業・漁業・観光業創造
		教 授 馬場 賢治	気象学や気候学、海洋学を中心として、それらに関係する様々な分野の研究を行っている。観測やシミュレーション解析によるデータを利用して、現実と理論の双方から場の理解や解明を目指す。
		教 授 遠井 朗子	環境条約の実効性を日本について、国内法における環境条約の受容の程度を実証し、評価することにより検討している。特に生物多様性・自然保護関連条約に焦点を当てている。
		准教授 松山 周平	自然植生や希少植物の保全・管理に関する問題に取り組みながら、その問題の中にある植物の生態や進化に関する研究を行っている。
		講 師 千葉 崇	1. 環境指標種群の検討 2. 珪質殻を持つ微生物の化石化過程の解明 3. 沿岸域における古地震・古津波研究 4. 人為汚染などによる表層環境の急変とその後の遷移過程の解明 5. 遺伝子と化石記録に基づく移入微生物の特定

注）下線のある教員は、研究指導補助と講義のみ

フードシステム専攻 修士課程

大講座	研究指導分野	指導教員	研 究 内 容
食資源 利用 システム	農・畜産食品学	教 授 前田 尚之	加熱食肉製品の製造工程における加工特性に影響する物質の解析を行う。また品質特性に及ぼす筋肉タンパク質や低分子化合物の変化を分析する。
		講 師 <u>平山 洋佐</u>	1. プロバイオティクス乳酸菌の生残性向上に関する研究 2. 防災備蓄品の乳児用液体ミルクの活用に関する研究 3. チーズホエイの利用に関する研究
食料政策 システム	食料政策論	教 授 相原 晴伴	農畜産物・食料の流通・需給・価格の動向を解析し、市場を安定させるためにはどのような政策が必要かを研究する。また、農畜産物やその加工品の有利販売のための政策支援のあり方について研究する。
	食品流通論	准教授 <u>増田 祥世</u>	生産者・生産者組織によるマーケティングを中心に農村を基盤とする持続可能なマーケティングのあり方を研究する。 また、その代表的な取組主体である女性農業者や農協女性部について実証的研究を行う。
経営管理 システム	経営管理論	教 授 阿部 茂	市場対応重視のマーケティング戦略について、技術経営プログラムの視点から検証を行う。独自技術を有する食品製造メーカー及び食品機械メーカーを実証研究する。
	食品情報 システム論	准教授 正木 卓	食料・農業に関する法制度、ならびに農業経営・農業生産を支える法制度のあり方について研究を行う。

注) 下線のある教員は、研究指導補助と講義のみ

食生産利用科学専攻 博士課程

研究指導分野	指導教員	研 究 内 容
植 物 資 源 生 産 学	教 授 小八重 善裕	圃場における物質循環を作物栄養学の視点で捉え、栽培に生かす研究を行う。特に菌根などの共生システムを分子生物学的手法を用いて理解する。
	教 授 薦田 優香	農作物や牧草などに感染するウイルスを主な研究対象とし、生化学的及び分子生物学的手法を用いて、植物とウイルスとの相互作用やウイルス感染・増殖機構の解明を目指す。
	教 授 三枝 俊哉	寒地における資源循環型の持続的な草地管理および粗飼料生産技術の確立を目指す。 1. 主要草種の生育特性解明 2. 草地の草種構成制御 3. 草地飼料畑の養分動態解明
	教 授 園田 高広	アスパラガス病害の発生生態の解明及び病害抵抗性育種に関する研究に取り組んでいる。
	教 授 星野 仏方	アフロ・ユーラシア地区における一次性生産力の変化の把握、及び家畜・野生動物の植物資源利用の解析と研究を行う。
	教 授 保原 達	陸上生態系内の現象に潜む目に見えない仕組みや原因などについて、生物と環境双方の共通項である『物質』を頼りに分析・解明する。
	教 授 森 志郎	植物バイオテクノロジーを利用して園芸植物における生殖隔離の克服に取り組む。また、寒冷地特産園芸植物の生理生態的特性を明らかにし、高品質栽培技術の確立を目指す。
	教 授 義平 大樹	飼料作物（トウモロコシ、牧草、麦類）と食用作物（麦類、豆類）における多収と高品質を両立できる栽培技術の確立と、その乾物生産過程からみた要因解明について研究する。
	教 授 我妻 尚広	圃場での雑草や生態系での野生植物の営みを分子生物学的な手法で明らかにし、それらの雑草や野生植物を生態遺伝学的視点に立って適切に利用管理する方法を研究する。
	教 授 澤本 卓治	土壌を中心とした物質循環を研究対象としており、具体的には土壌やふん尿処理過程から発生する温室効果ガスの動態や土壌中の養分の挙動について研究を行う。
	准教授 中平 賢吾	持続可能な農業害虫の防除体系の確立を目指して、害虫と天敵の生活史や行動等の基礎生態の解明や、農業現場における害虫の発生メカニズムの解明、天敵昆虫の利用法の開発等に関する研究を行う。
	准教授 林 怜史	作物(イネ、トウモロコシ、パレイショ)における多収、省力化、環境負荷低減栽培技術について研究する。
動 物 資 源 生 産 学	教 授 天野 朋子	1. 家畜における乳と肉の生産に関わる遺伝子の研究 2. 家禽における卵と肉の生産に関わる遺伝子の研究 3. 家畜と家禽の適切な管理に関わる抗病性や繁殖能力、気質などの形質を制御する遺伝子の研究
	教 授 今井 敬	1. ウシ体外受精胚における発生率向上および受胎性評価技術に関する研究 2. ウシ雌雄産み分け技術の高率化に関する研究 3. 家畜胚の新しい生産技術の開発に関する研究
	教 授 菊 佳男	1. 牛の乳房炎の診断、治療および予防に関する研究 2. 牛の乳房炎に対する抗菌薬治療の代替法に関する研究
	教 授 佐藤 喜和	北海道を代表する野生動物であるヒグマを中心に、その生態を理解し、人間との軋轢を最小化するため、野外調査から室内実験、データ解析まで様々な手法を用いた研究を行う。
	教 授 堂地 修	1. ウシ胚の効率的な生産方法の開発 2. ウシ卵子及び胚の超低温保存技術の開発 3. 胚移植の受胎率向上と有効利用 4. 高泌乳牛の繁殖生理の特性 5. 牛の繁殖管理技術の向上

食生産利用科学専攻 博士課程

研究指導分野	指導教員	研究内容
動物資源生産学	教授 中谷 暢丈	環境中における生元素や有害物質の生物地球化学的循環過程の解明とその人的相互作用の評価、生物学的・化学的手法を用いた環境評価手法の開発に関する研究を展開する。
	教授 中辻 浩喜	土地利用型乳肉生産システムを土-草-家畜を巡る物質循環として捉え、家畜生産性および土地生産性に及ぼす要因の解明と土地利用方式まで含めた生産システムの構築を目指す。
	教授 森田 茂	家畜の動作・活動（採食行動、休息行動、人に対する反応）を解析するとともに、家畜の社会行動から家畜同士の関係を把握することで家畜の習性に配慮し、洗練化された飼養管理技術の構築を目指す。
	准教授 伊吾田 宏正	野生動物管理の重要な要素である狩猟について、その生態学的・社会的役割を追求するため、狩猟に関する動向や意識、狩猟鳥獣の生態および効率的捕獲手法等を研究する。
	准教授 増田 豊	家畜の経済諸形質を遺伝的に改善するための手法について研究する。 1. 遺伝的能力予測のための統計モデルの構築 2. ゲノム情報等を用いた育種技法 3. データ解析のためのソフトウェアの開発
	教授 馬場 賢治	気象学や気候学、海洋学を中心として、それらに関係する様々な分野の研究を行っている。観測やシミュレーション解析によるデータを利用して、現実と理論の双方から場の理解や解明を目指す。
	教授 山田 弘司	人と動物の関係学の研究として、アニマルセラピーや乗馬療法の効果、人とペットの関係調査、動物のストレス反応や性格・気質測定、動物園動物の展示と行動調査を行う。
	教授 山田 未知	豚や鶏におけるエコフィードの活用法や給与飼料が十分活用されるような飼養環境の改善について研究を行う。また、養豚においては効率的な子豚生産のために、その繁殖性改善のための研究も併せて行う。
	教授 吉田 磨	1. 地球温暖化に関する国内外フィールド観測と国際精度分析 2. 生物地球化学的物質循環と地球環境変化の解析 3. フィールド観測を用いた持続可能な農業・漁業・観光業創造
	准教授 小川 健太	衛星、航空機、無人機からの計測（＝リモートセンシング）、GIS、GPS等を用いた森林や農地のモニタリング、気候変動の予測、環境政策の立案等への情報活用に関する研究
	准教授 西寒水 将	1. 乳牛および肉牛におけるゲノミック評価と繁殖技術（人工授精、受精卵移植、体外受精）を併用した効率的な牛群整備および経済的高能牛の生産に関する研究 2. 人工授精および受精卵移植の受胎率向上に関する研究 3. 食品加工副産物等の未利用資源利用によるエコフィードを活用した肉牛の飼養コスト低減技術の研究
	准教授 原村 隆司	野生動物の行動や生態に関する研究を行っており、研究対象とする生物は、主として両生類または昆虫類の各種で、基礎的研究に重点をおいて調査する。
食資源開発利用学	教授 阿部 茂	食品に新たな価値や機能性を付与する、又は生産性を向上する食品加工技術の研究を行うとともに、技術の汎用性拡大を目的としたマーケティング調査を行う。
応用食品化学	※未定	
微生物利用学	※未定	
農業経営政策学	教授 相原 晴伴	米・青果物・牛乳・食肉・畑作物などの農畜産物・食料の販売・流通・需給、産地による有利販売のための戦略を研究する。
	教授 井上 誠司	地域農業のシステム化並びに地域農業振興計画の有効性に関する研究を行う。
	教授 日向 貴久	1. 畜産経営における、経営管理・経営計画に関する研究 2. 持続的な農業に向けた生産者の意思決定に関する研究 3. 持続的な農業を推進するための社会条件に関する研究
	教授 吉野 宣彦	酪農専業地帯の農協の業務データ等をデータベースに構築し、逐次経営分析を可能にするプログラムを開発して研究に利用している。 1. 酪農経営における収益性格差の要因 2. 草地更新における経済効果の形成条件 3. 放牧酪農における高収益の確保条件
	教授 小糸 健太郎	1. 酪農の生産性に関する研究 2. 農家の技術選択に関する研究 3. 食品廃棄物・副産物利用の現状とその利用に関する研究
	教授 小林 昭博	農村と都市に通底する社会的・文化的問題を聖書とキリスト教思想に基づき応用倫理学の観点から読み解く。 1. ジェンダー研究、セクシュアリティ研究、クィア研究 2. 平和研究、人権研究、生命倫理学 3. 動物の福祉、動物の権利、自然との共生
食料経済学	准教授 正木 卓	食料・農業に関する法制度、ならびに農業経営・農業生産を支える法制度のあり方について研究を行う。

注）下線のある教員は、研究指導補助と講義のみ

食品栄養科学専攻 修士課程

大講座 (分野)	研究指導分野	指導教員	研 究 内 容
加工 特 性	食品加工特性学	教 授 舩津 保浩	低利用水畜産資源の有効活用を目的として麹や好塩性乳酸菌等を用いた発酵食品を開発し、その発酵工程で起こる化学成分や呈味成分等の変化と最終製品の品質について調査する。
		准教授 栃原 孝志	特定の乳酸菌が産生する粘質物に含まれる菌体外多糖の物理化学的特性、機能性及び食品製造への応用性の解析を行う。
	食品物性学	教 授 金田 勇	食品をソフトマターとして捉え、主にレオロジー的手法を用いて、その物理化学的特性に関する研究を行う。研究対象はハイドロゲルおよび濃厚コロイド分散体である。
		准教授 川端 庸平	食品の食感や美味しさに関する課題をレオロジー測定並びに量子ビームを用いた構造研究によって解決する研究分野（分子美食学－分子ガストロノミー）に取り組む。
栄 養 機 能	食品栄養機能化学	教 授 上野 敬司	1. オリゴ糖の生体調節機能に関する研究 2. 糖質関連酵素を用いたオリゴ糖生産に関する研究 3. 糖質関連酵素の探索及び機能改変に関する研究
		教 授 小野寺秀一	1. 糖転移酵素を用いた機能性オリゴ糖の創製に関する研究 2. オリゴ糖関連酵素の遺伝子工学的研究 3. 新規機能性食品成分の検索とそれらが生体に及ぼす影響
	食品機能生化学	教 授 岩崎 智仁	種々の食品成分が有する機能性について、マウス、ラット並びに畜産動物を用いた骨格筋の可塑性や筋肉タンパク質代謝のシグナル伝達を指標に、分子生物学、生化学及び形態学的手法によって評価解析する。
		准教授 長谷川 靖洋	食肉を構成している骨格筋の特性について生化学的および組織学的手法を用いて解析する。
健 康 栄 養	健康栄養学	教 授 小林 道	1. 栄養及び食習慣と疾病及び健康の関連解明のための栄養疫学研究 2. 社会的要因や生活習慣と疾病及び健康の関連解明のための疫学研究 3. 統計学的手法を用いた実践栄養学に関する研究
		教 授 須賀 朋子	SDG s の「すべての人に健康と福祉を」「飢餓をゼロに」「貧困をなくそう」「平和と公正をすべての人に」「ジェンダー平等を実現しよう」「人や国の不平等をなくそう」の目標達成を追求していく。これらを踏まえて、DV、性暴力、対人暴力と動物虐待の関係についての研究が好ましい。
		教 授 山口 太一	1. 健康の保持増進の為の食事及び運動の方法 2. より良いスポーツパフォーマンス発揮の為のコンディショニング（栄養摂取及びトレーニング）の方法を明らかにする為の研究
		准教授 木村 宣哉	1. ヘルスリテラシーが健康・栄養状態や行動に及ぼす影響の研究 2. 健康・栄養改善のための介入方法の開発とその効果検証 3. 健康・栄養教育のための教材・資料の開発と評価
		講 師 柴田 啓介	1. 健康の保持・増進のためのコンディショニング方法（栄養及び運動）に関する研究 2. スポーツにおける競技力向上のためのコンディショニング方法（栄養及びトレーニング）に関する研究
		准教授 杉村留美子	生活習慣病の要因と食行動との関連を探り、食事制限を伴う行動変容の難しさを考慮した栄養教育手法を検討する。行動科学理論を用いた食行動変容の促しに関する研究を行う。
	臨床栄養学	教 授 大谷 克城	1. 活性酸素が関与する様々な疾患に対する抗酸化物質の作用に関する研究 2. 生活習慣病の改善に効果的な食素材の加工方法や抗酸化物質の摂取方法に関する研究
		教 授 萩原 克郎	1. 家畜・野生動物における感染症の疫学と予防・治療研究 2. ウシの免疫機能に関する研究 3. 腫瘍免疫に関する研究
食 環 境 管 理	食品微生物管理学	准教授 村松 圭	糖質が微生物に及ぼす影響についての研究を主とし、ビフィズス菌の糖質利用、フラクトオリゴ糖資化性菌の検索、微生物による乳糖の資源活用等の研究を行っている。
	食品環境汚染学	※未定	

注) 下線のある教員は、研究指導補助と講義のみ

食品栄養科学専攻 博士課程

専門分野	研究指導分野	指導教員	研 究 内 容
加工特性	食品加工特性学	教 授 船津 保浩	低利用水畜産資源の有効活用を目的として異種筋肉タンパク質を複合した新規食品素材を開発し、そのゲル化特性をレオロジー的特質、タンパク質分析、微細構造等から解析する。
	食品物性学	教 授 金田 勇	食品をソフトマターとして捉え、主にレオロジー的手法を用いてその物理化学的特性に関する研究を行う。研究対象はハイドロゲルや濃厚コロイド分散体である。
栄養機能	食品栄養機能化学	教 授 上野 敬司	1. オリゴ糖の生体調節機能に関する研究 2. 糖質関連酵素を用いたオリゴ糖生産に関する研究 3. 糖質関連酵素の探索及び機能改変に関する研究
		教 授 <u>小野寺 秀一</u>	1. 糖転移酵素を用いた機能性オリゴ糖の創製に関する研究 2. オリゴ糖関連酵素の遺伝子工学的研究 3. 新規機能性食品成分の検索とそれらが生体に及ぼす影響
	食品機能生化学	教 授 <u>岩崎 智仁</u>	種々の食品成分が有する機能性について、マウス、ラットならびに畜産動物を用いた骨格筋の可塑性や筋肉タンパク質代謝のシグナル伝達を指標に、分子生物学、生化学、および形態学的手法によって評価解析する。
健康栄養	健康栄養学	教 授 小林 道	1. 栄養及び食習慣と疾病及び健康の関連解明のための栄養疫学研究 2. 社会的要因や生活習慣と疾病及び健康の関連解明のための疫学研究 3. 統計学的手法を用いた実践栄養学に関する研究
		教 授 須賀 朋子	SDG s の「すべての人に健康と福祉を」「飢餓をゼロに」「貧困をなくそう」「平和と公正をすべての人に」「ジェンダー平等を実現しよう」「人や国の不平等をなくそう」の目標達成を追求していく。これらを踏まえて、DV、性暴力、対人暴力と動物虐待の関係についての研究が好ましい。
		教 授 山口 太一	1. 健康の保持増進の為の食事及び運動の方法 2. より良いスポーツパフォーマンス発揮の為のコンディショニング（栄養摂取及びトレーニング）の方法を明らかにする為の研究
	臨床栄養学	教 授 大谷 克城	1. 活性酸素が関与する様々な疾患に対する抗酸化物質の作用に関する研究 2. 生活習慣病の改善に効果的な食素材の加工方法や抗酸化物質の摂取方法に関する研究
食環境管理	食品微生物管理学	※未定	
	食品環境汚染学	※未定	

注) 下線のある教員は、研究指導補助と講義のみ